

情報連絡員報告・11月分

製造業の「売上高」DI値 水面下へ逆戻り

～「業界の景況」DI値も悪化の度を強める～

<東京都中央会>

11月の情報連絡員報告によると、平成16年2月以降プラスの値を続けてきた製造業の「売上高」DI値がマイナス(-3.1)へ転じたことが明らかになった。7月に14年ぶりにプラスを記録した製造業の「業界の景況」DI値も、その後は水面下に転じたままである。非製造業は、「売上高」「業界の景況」とも水面に浮上することなくマイナスの度を強めている。クリスマス・年末商戦に期待したい。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

理容用品卸=師走を目前にした今頃の時期になると、商況は活気づくのだが、今期はめっきり冷え込み、当分冬の季節が続くそうである。

玩具人形卸=いよいよ、玩具業界の最需要期であるクリスマス商戦の本番に入った。しかし、相変わらずヒット商品も生まれず、又、定番商品の売行きも今ひとつで、苦戦は免れないと思われる。

築地市場青果仲卸=前年比138%と取扱金額は増えていますが、商品数量が少ないため価格が上がっただけのことで、急な取扱金額の増加のため資金繰

りが大変です。

豆腐製造販売=前年より暖冬のように鍋物や、生揚げ、がんもどきなどの煮物は食卓に上がらない。豆乳の消費が伸び、売上増につながっていると思われる。国産大豆は、度重なる台風の被害が大きく、11月26日の初入札で前年同月の倍の高値をつけている。

家電小売=公正取引委員会が9月に「家電製品の流通実態に関する調査報告書」を発表。この報告書で、家電量販店がメーカーに対しリベート、協賛金、ヘルパー派遣などを要求する不公正な取引の問題を指摘している。

化粧品小売=相変わらずドラッグストア

の進出が多く、組合員が苦戦している。
立地がよく売れている店が廃業する不可解な現象がある。化粧品を売るよりも貸す方が高収益になるらしい。

青果物小売=半月前の野菜価格の異常なほどの上昇によって野菜離れが起きた。その後中国などの輸入野菜によって価格は低下したが、売れ行きはよくない。

秋葉原電気街=年末商戦が始動。秋のブライダル需要は単品買いが多く、陽気も暖かく暖房機の動きも活発とはいえない。

トラック運送業=水準は決してよくはないが、動きはあまり変化ない。業界の運賃調査によれば現状より20%程度のアップを望む企業が75%を占めている。

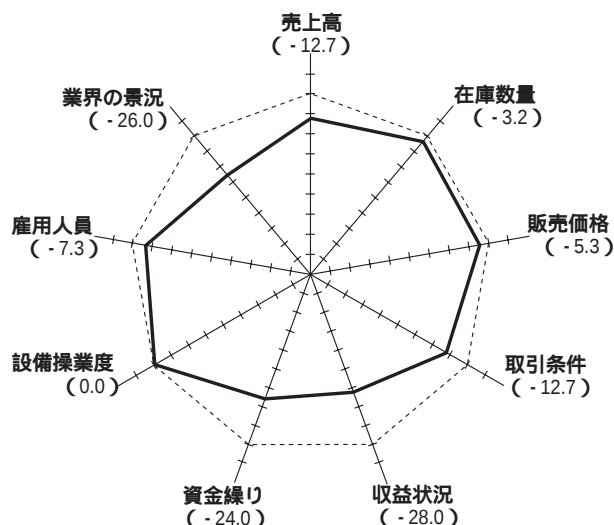
和服縫製=例年であると、秋は着物を着るのに最もよい季節なので百貨店や小売店も催事に力を入れるときである。しかし、今年は台風や地震の災害により消費者の動きも悪く、十日町・小千谷の状況は和服業界として他人事ではないので活気がない。

<要望事項欄より>

* BSE問題について、消費者が納得できる歩み寄りで検査方法に妥協案を見いだして、1日も早い輸入解禁を望みます。
[食肉卸]

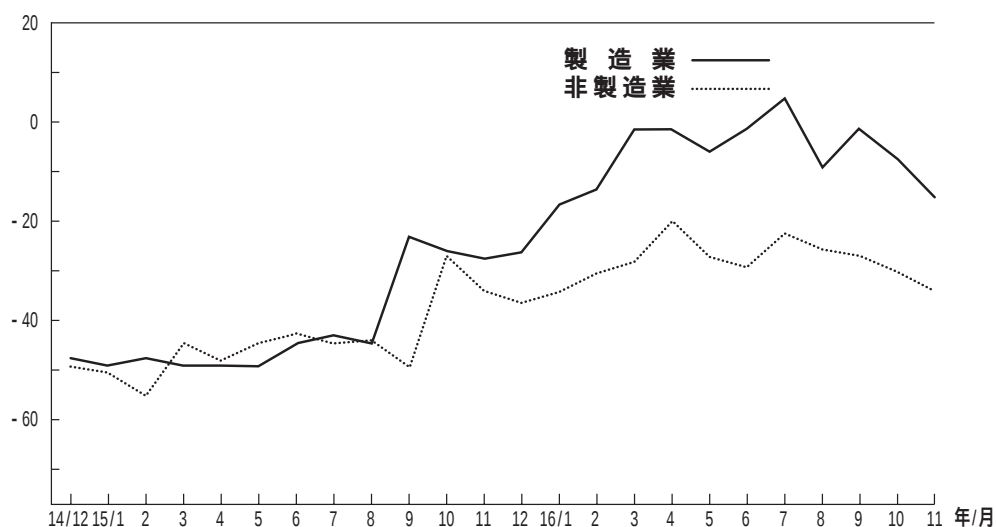
* 定率減税の見直しや消費税率引上げを視野に入れた増税論議がなされ、自己防衛のために消費はますます冷え込む。国民の目に見える改革が先だと思っている。
[家具卸]

11月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）

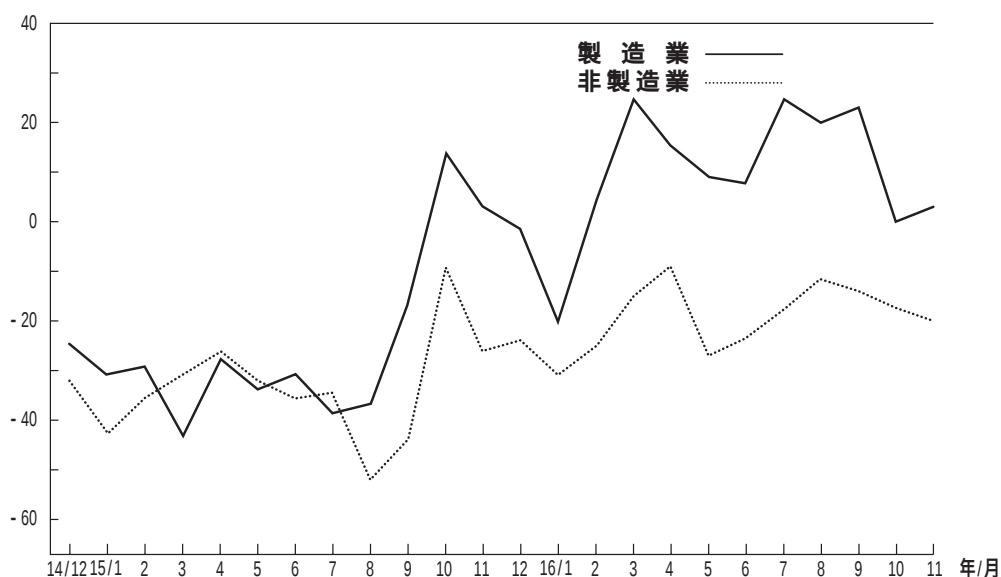


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H14.12～H16.11）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H14.12～H16.11）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。